

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗	ユニット名	一の館
所在地	〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	平成28年3月31日現在、情報公表の掲載なし
-----------------	-------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月5日	評価機関 決 済 日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開設して12年目を迎え、当時からの入居者様は2名だけになりました。新しく入居される方は、介護度も高く、年齢も90才前後の方が多いため、入居年数のサイクルが以前よりも短くなっているのが現状です。重度化しても安心して生活できるように、母体である病院と連携を取り、ご家族と話し合いを持ちながら、その方に一番良いと思われる支援の方法を考えています。施設内での生活が多くなりますので、広い中庭を利用し、季節の花や野菜を育てています。入居者様が自ら作った野菜を献立に取り入れ、皆さんと一緒に美味しく頂き、季節感を味わっています。また、日々レクリエーションや行事にも力を入れ、入居者様が気分転換出来るよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営母体が病院であるため、定期的な健康診断や24時間の医療連携体制が整っており、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>献立は利用者の希望を取り入れ法人の栄養士が作成し、雛祭りや七夕祭りなどの行事食は特別メニューを提供するなど、美味しくバランスの取れた食事が利用者の楽しみとなっている。</p> <p>利用者が野菜や花を育てられるよう事業所の敷地内に自家菜園を作り、西瓜やじゃがいも、茄子などを食材にして味わっている。</p> <p>職員は「自分らしく生きる」という事業所の理念を大切に、利用者の趣味を活かした環境を提供したり、地域とのふれ合いやボランティアが来訪するなど、利用者一人ひとりが生き生きとした生活ができるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所独自の理念を玄関に掲示し、常に意識しながらケアに努めている。事業所独自の理念を「自分らしく生きる」に一本化し、解り易くした。	法人全体の理念「優しく、しんせつ、ていねいに」とは別に事業所の理念はあるが、地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念には至っていない。 法人全体の理念と事業所の理念を玄関に掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員で話し合っ作成し、実践につなげることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、中学生の体験学習、ボランティアの訪問等を通し、地域との交流を図っている。狭い町なので、面会に来た家族が他の入居者と知り合いだったり、親戚関係にあったりと思わぬ再会がある。	中学校の職場体験学習を受け入れているほか、年2回保育園児が来訪し、歌やお遊戯を披露してくれ、利用者はお礼に雑巾を縫って園児にプレゼントするなど、交流している。 年2回琴の演奏やフラダンスなどの地域のボランティアが来訪し、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度実施している運営推進会議の中で、行事の実施状況や家族へのお便りを通して、入居者様への関わりを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日々の様子や、毎月行われている行事等を報告し、地域の方やご家族の意見を参考にして、ケアに活かすようにしている。民生委員の方にボランティアを紹介して頂いた。	運営推進会議は町職員や地域の代表、町議会議員、民生委員を委員として2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では事業所の状況や行事などを報告するとともに、意見交換を行っている。 委員からボランティアを紹介してもらうほか、地域の防災や避難経路について話し合っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者に入居状況を報告し、日頃から連絡を取り、また実状を伝え協力関係を築いている。管理者は町の定例会議に出席し、町や他事業所との連携を深めている。	町職員が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく直接町役場に出向き、入居状況を報告したり、事業所の運営やサービスの課題について相談をしている。 管理者は2ヶ月に1回開催する、町主催の介護保険関連事業所の会議や年1回の認知症に関する研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を回避する為、玄関の施錠は家族等に説明し、ご理解を頂いている。事業所としては身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合、（介護服・ミトン使用）ご家族に説明し承諾を得てから行っている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、年1回マニュアルに基づいた内部研修を実施し、全職員が禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を正しく理解している。 現在やむを得ずつなぎ服を着用している利用者がいるが、家族等に説明し書面にて同意を得るとともに、職員は定期的な話し合い、「経過観察記録」や「再検討記録」で解除にむけて検討している。 玄関は徘徊者や外部からの侵入者があったため施錠しているが、入居時に家族等に説明して同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を行い、虐待防止の徹底に取り組んでいるが、気付かないうちに心理的虐待を行っていないか、日頃から職員同士で話し合い、言葉づかい等に注意するよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の研修を元に、資料を各ユニットに配布し、それぞれが理解を深めていくように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはサービス内容、利用料金や解約方法等の説明を十分行い、理解・納得の上、署名・捺印を頂いている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、面会時には近況報告だけでなく施設に対する意見や要望を聞き、運営に反映している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明をしている。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時に意見や要望を聴くように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を行い、意見交換を行っている。毎朝の申し送り時にも職員の要望や問題点を話し合える環境をつくっている。	管理者は月1回の定例会議で職員の意見や要望を聞いているほか、日頃から話し易いようコミュニケーションを図っている。 管理者は職員の希望休を月3回取り入れるほか、不具合が生じたエアコンを交換するなど、職員から出た意見や要望をその都度話し合って運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に無理のないローテーションを組むように努め、いつでも対応できる人数のもとで勤務できるようにしている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町の研修会や法人外の研修への参加を積極的に勧め職員のスキルアップを図っている。研修報告をまとめ、月の会議で内部研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大洗町の包括支援センターを中心に、月に1回定例会議がある。参加することにより、他事業所や居宅サービスの状態を知ることができ勉強になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報をもとに、本人の要望に沿った支援ができるようし、新しい環境で安心して生活できるようにコミュニケーションを密に取りながら「何でも話せる」関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の要望や思いをしっかり聞き不安を少しでも解消できるよう心がけている。また家族とは連絡を密に取りながら、話し合いの時間をできるだけ多くつくれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や家族の要望等十分に聞き、今何が必要なのか話し合いながら、決定している。また他病院への継続受診等、必要な時には対応できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ等の軽作業が行えるよう支援している。作業を一緒に行いながら入居者様からは昔の話や日常会話の中に教えられることが多く、さりげない労いの言葉に元気を頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはくつろげる環境を提供し、家族の要望や意見をその度聞き、日頃のケアに活かせるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの人の面会は入所年数が長くなるにつれ無くなってきている。法事やお彼岸に墓参りに行く入居者は数名いる。	職員は利用者の家族等や知人の面会時には、お茶を出して居間や居室でゆっくり寛げるよう配慮している。 彼岸や法事などは自宅へ外出や外泊ができるよう、家族等に連絡調整をしたり、共用空間にある公衆電話で家族等や友人に電話をかける際は職員が取り次ぐなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクリエーション等、入居者同士が仲良く会話できるような雰囲気づくりを心がけている。また入居者が孤立しないよう絶えず見守り・声掛けを行い、トラブルには迅速に対応し、不満やストレスの軽減に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の病院や施設に入院又は移動された場合、お見舞いや面会をし、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望や思いには日々の関わりの中で把握するように努め、日誌に記録している。意志表示のできない入居者には家族の希望やこれまでの生活を振り返りながら職員間で話し合うようにしている。	職員は利用者との日々の関わりの中で、コミュニケーションを図りながら一人ひとりの暮らしの希望や要望を把握して職員で共有し、思いにそった支援に努めている。 利用者の生活歴から畑仕事が好きな利用者のために、広いスペースの自家菜園を作り、様々な作物が育てられるよう支援している。 自己表現が困難な利用者の場合には、表情や仕草から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分な聞き取りを行い、情報収集に努めている。前施設や居宅サービス事業所からの情報提供書も重要である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・申し送り・朝礼等で常時話し合い、入居者一人一人の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れながら、サービス担当者会議で意見交換を行い、本人にとっていちばん良いケアを模索しながらケアプランを作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聴き、カンファレンスを行って計画作成担当者が作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、1年毎に見直しをしている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間の情報の共有化はもとより、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で連携を取りながら、その時にいちばん適切なサービスが提供できるように協力体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる行事参加、保育園・中学校との交流等の他面会時のご家族同士のおしゃべりも楽しみのひとつとなっている。年2回消防訓練を行い、安全な生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は、本人と家族の希望する病院となっているが、ほとんどが同系列の病院を受診している。歯科は訪問受診であるが、眼科・婦人科は家族によって受診をお願いしている。現在、パーキンソン病の入居者様がおおり、薬の関係で専門の病院への受診を家族にお願いしている。	管理者は契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認しているが、ほとんどの利用者は同一法人の協力医療機関を受診している。協力医療機関への受診は職員が付き添い、受診結果は家族等に電話などで連絡するとともに、看護記録を作成して全職員で共有している。 6ヶ月に1回利用者の健康診断を行うほか、協力医療機関と24時間連携体制が取れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師がいない為、母体である病院の訪問診療時や外来受診の折に相談をし、適切な対応ができるようにしている。電話での相談も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。系列病院の為、度々面会に行き担当看護師と情報交換をし、早期の退院ができるよう働きかけている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族・医師と話し合い、家族の希望を尊重しながら、支援の方法を考えている。看取りに関しては現在の方針では行っておらず、同系列の療養型への移動も対応する。	事業所は看取りをしない方針で、「重度化・看取りに関する説明及び同意書」を作成して家族等に説明し、同意を得ている。 管理者は年1回、重度化の対応マニュアルをもとに内部研修を実施している。 職員は利用者や家族等の意向にそった介護ができるよう協力医療機関と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各入居者の緊急連絡先を作成し、ユニット毎に電話の側に掲示している。定期的な訓練は行っていないが、訪問診療時、看護師に応急処置の仕方や対応を聞き学んでいる。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。震災後、勉強会を開きマニュアルを作成し、各ユニットに掲示している。また食糧・飲料水を備蓄している。消防訓練後、考察、報告書を提出している。	夜間想定を含む総合避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 訓練後は反省会を行ない、結果を詳細に記録して全職員で確認している。 運営推進会議で、災害時の地域の協力をお願いしている。 災害に備えて米や飲料水、食料、毛布などを備蓄しているほか、懐中電灯や衛生用品が入っている防災リュックを各ユニットに備えている。	災害時のみならず、できれば避難訓練から地域住民の参加を運営推進会議などで呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助等、場面に応じた言葉かけやさりげない対応に心がけている。特に排泄の失敗等の時は自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切に、常に利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 トイレ誘導の際は、できるだけトイレの外で待ったり、入浴は一人ずつ支援するなど、プライバシーに配慮した対応を心がけている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管して情報漏洩に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から言葉かけを多くし、信頼関係を築き、自分の気持ちが言えるよう支援している。一人一人のレベルに合わせて会話しているが、意志表示の少ない入居者には表情や行動に表れるサインに気づくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活できるように支援しているが決められた時間の中での生活の為、難しい一面もある。入居者がなにをどうしたらいいか迷った時は、本人の気持ちを大切に、柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度理容を行い、本人の希望の髪型にしている。服を自分で選ぶことができる入居者は、その日の気分で着替え、おしゃれを楽しんでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決まっているが、行事の時は入居者の希望を反映した献立にしている。今年も庭でできたスイカをおやつに食すことができた。他館の入居者様を作った、カボチャやナス、トマト等を料理し皆で美味しく頂いている。テーブル拭きも一緒に行っている	職員は食事介助や声かけをしながら利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を摂っている。利用者は職員と一緒にテーブル拭きや下膳など、能力に応じた役割を担っている。誕生会や雛祭り、敬老会、七夕祭りなどの行事食は、同一法人の栄養士が献立を立てて特別食を提供しているほか、自家菜園で収穫した西瓜やジャガイモ、茄子などを食材に加えて、季節感のある食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、バランスのとれた食事を提供している。食事や水分の摂取量を毎日記録し、確保できているか確認を行っている。摂取量や嗜好等を把握しながら、体重の増減に注意を払っている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行い、清潔を保つよう支援している。なるべく自分で磨くよう援助し、不十分なところは介助している。日曜日には口腔ケアの器具を塩素消毒し、義歯は、洗浄剤を使用している。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンに合わせて声掛け・誘導を行っている。夜間オムツを使用し、日中はリハパンでトイレで排泄している入居者様もいる。排便記録表を作成しているが、自立している入居者様には、トイレ後本人に確認している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員の声かけや時間の誘導によりトイレで排泄ができるよう支援している。 夜間はオムツ使用でも日中はリハビリパンツを使用し、職員の適切な誘導によりトイレで排泄ができるように改善したり、夜間は居室にポータブルトイレを置いて排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為、水分を多く摂るよう声掛けしたり、廊下歩行を朝・夕行っている。毎食、野菜たっぷりの食事、牛乳やヨーグルト等の提供をしている。便秘気味の入居者には医師と相談し、服薬コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を行っているが、入浴できなかった場合は月～土曜日までいずれかの棟で入浴を実施している為、希望があれば入浴できるようになっている。自分のペースでゆっくり入浴できるよう配慮している。	入浴は週2回以上午前中を基本としているが、各ユニットで入浴日が違うので、利用者の状況に合わせて他のユニットでも入浴ができるよう支援している。 季節に応じて柚子湯や菖蒲湯のほか、入浴剤で季節感や温泉気分を味わい、入浴が楽しめるよう支援している。 浴室に手摺を設置したり、シャワーチェアを使用して安心して入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けているが、本人の体調に合わせていつでも休めるよう配慮している。夜間良眠できるように日中は廊下歩行やレク・作業等を行うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容を記載し、説明書も添付している。また誤薬防止の為、毎回チェックし与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯たたみ、厨房へのおつかい等皆楽しみながら行っている。軽作業やレク・ゲーム・カラオケ等積極的に参加されている。特にぬり絵は楽しみの一つになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は屋外に散歩や日光浴に出かけていたが、現在は困難になってきた。できるだけ天気の良い日は、日光浴が出来るように支援していきたい。また、春・秋のドライブの他、家族と共に墓参りや外出に出かけたりしている。	年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に季節の花見会やめんたいパーク見学などに、楽しく外出ができるよう支援している。天気の良い日は、広い敷地内を散歩したり、近くの公園に出かけたりしている。家族等が来訪した際は、家族等と一緒に食事や買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい入居者多く、殆どはご家族、又は施設で預かり管理している。一人だけ所持している人がいたが、しまい忘れから盗られ妄想が現れる為、ご家族に事情を説明し持って帰って頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他館ではお金を所持している入居者が、施設内にある公衆電話で自由に電話できるよう支援しているが、1の館ではない。電話をかけたいと要望があったり、かかってきたときは取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや廊下の壁に作品を貼ったり、花を飾り季節感を取り入れている。広く長い廊下は歩行訓練に利用したりソファを置いて他の館の入居者とも会話できるようくつろぎの場所になっている。	居間は十分な採光と温度管理をしているほか、広く長い廊下は利用者の歩行訓練やソファを配置して利用者同士で会話をしながら寛げるよう工夫している。廊下の壁際には、利用者と職員で制作した作品や行事の写真が飾ってあるほか、観葉植物や季節の花で穏やかな雰囲気づくりをしている。廊下から見える中庭には季節の花が壇載してあり、散歩をしながら外気浴をするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が自由に居室に遊びに行ったり、ホールや廊下に置いてあるソファでゆっくり過ごせるよう工夫している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や・ポスター・絵等好みの物を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。また 家族の協力を得ながら、物干しや小物入れを持参して頂き、自立度の高い入居者には自分で整理ができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や場所を間違えないようプレートで明確に表示している。在宅酸素療法を行っている入居者の居室はトイレやホールの近くにしている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム大洗

作成日 平成28年4月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、実践につなげていく。	定例ミーティングにおいて、新しい理念を作成し、どう実践に取り入れていくか意見交換を行い、介護実践向上に努めていく。	H28.4月～5月
2	35	災害対策	災害時だけでなく、普段から地域住民の避難訓練への参加を得られるようにする。	運営推進会議において、地域住民や行政の消防訓練への参加を呼びかけていく。	H28.4月～ H29.4月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。